

## 第2回 我孫子市通学区域審議会記録

開催日時：平成23年11月29日（火） 午後1時30分より午後3時10分まで

開催場所：我孫子市教育委員会 大会議室

出席者：審議会委員 青木委員（会長），峯岸委員，猪瀬委員，丸委員，柴田委員，青山委員，齋藤委員，太田委員，竹井委員，新堀委員，鎮目委員，渡辺委員，仲川委員

事務局 中村教育長，川村教育委員，北嶋教育委員，高橋教育総務部長，直井学校教育課長，田中指導課長，吉川学校教育課長補佐，鴨下管理主事

### 会議の概要

#### 第1回審議会での説明及び資料等への質問について

新木小学校及び布佐南小学校の児童数の推移について、最新10月1日現在の資料を再提出する。（前回の資料と比較すると新木小の平成24・25年度の入学者数に変更となる。）

- ・委員 ・平成29年度までの児童数推移の資料であるが、平成30年度以降の資料はあるか。
- ・事務局 ・平成30年度以降は今後の出生となるので現時点では示すことができない。
- ・委員 ・根戸デイサービスセンターが平成23年度より5年間の指定管理者契約となった経緯について説明してほしい。
- ・事務局 ・根戸小学校の児童数の推移を確認し、適正配置検討委員会を開催したのが平成22年度当初からだった。それ以前に福祉施設の指定管理者契約の準備が開始されており、現在の状況となった。
  - ・現在、福祉施設となっている部分については、平成12年頃に教育財産から行政財産へ移行した。2階部分の学童保育等で使用している部分についても同様である。
  - ・根戸小学校の教室不足への即時対応は、行政財産を教育財産に戻す必要があることから難しい現状である。
- ・会長 ・要するに、現在の福祉施設を教室として使用できるように調整するには時間がかかるということである。

## 我孫子市立小学校及び中学校通学区域の一部変更することについて

### 1 「根戸小学校及び我孫子第四小学校の通学区域の一部に選択通学区域を設ける」こと

- ・ 委 員 ・ 学校選択制の実施については、長期間の展望を持って実施するべきであり、短期間に対応が変わることは避けたい。
- ・ 事務局 ・ 平成25年度入学者より開始し、その児童が卒業する6年後まで継続が必要と考えている。  
・ 児童数の推移、新たな住宅の建設有無等を含め、何年経過したら見直しが必要であるかについても本審議会において検討をお願いしたい。
- ・ 委 員 ・ 野田市で同様の審議経験があるが、住民数が一定している地域は将来の推移について見当が付けやすいが、転出入の多い地域は将来の予測は難しい。
- ・ 委 員 ・ 兄弟、姉妹のいる家庭では、入学先が根戸小学校と我孫子第四小学校と入学先が異なるということが発生することのないようにすべきと考えるが、対応策はあるのか。
- ・ 事務局 ・ 現在学区外就学等においては、同一家庭の児童生徒が同じ学校へ就学できるように配慮している。  
・ 柏市では、定員を超えた場合は公開抽選で入学者を決定している。  
・ 同一家庭の児童生徒は同じ学校への就学を認めるか否かについて、本審議会で検討をお願いしたい。
- ・ 委 員 ・ 兄弟、姉妹がいる場合は、保護者として同じ学校へ通学させたい。
- ・ 委 員 ・ 年齢の近い場合は配慮が必要だが、兄弟が在籍している場合と卒業してしまっている場合では対応も違う。卒業後は保護者が再度考えることも必要である。
- ・ 委 員 ・ 学校行事の関係からも、通学先が違くと保護者の負担が大きくなる。
- ・ 委 員 ・ 兄弟、姉妹がいる児童数を把握しているか。資料があれば提示してほしい。
- ・ 事務局 ・ 次回の審議会までに準備したい。
- ・ 委 員 ・ 根戸小学校から20名我孫子第四小学校へ入学することで対応できるのか。  
・ 根戸小学校からは我孫子第四小学校へ何人の児童が入学を希望しているか。  
・ 希望者が20名を超えた場合、公開抽選で落選した方への説明責任をどう果たすかが大切になる。
- ・ 事務局 ・ 現状と今後の推移を正確に伝える必要がある。児童数の推移、教室数などから学校選択制と判断した点について理解いただけるよう説明したい。
- ・ 会 長 ・ 公開抽選については実施する予定であるか。

- ・事務局
  - ・旧日立精機跡地マンション群から我孫子第四小学校へ入学を希望する児童数は意向調査からも多数いることが判明している。
  - ・公開抽選が理解を得やすいと判断している。
- ・委員
  - ・公開抽選については、保護者が自分の子どもの年齢から学校選択制を希望するかどうかを判断できる説明会を行い、理解を得る必要がある。
  - ・保護者の理解を得るための説明会をいつ実施するのか。
- ・事務局
  - ・本審議会より答申をいただき、来年度早々に計画を作成し、平成24年7月か8月に提示し、同時期に保護者の理解を得るための説明会を開催できればと考えている。
- ・会長
  - ・学校選択制における、我孫子第四小学校受け入れ児童数及び弟妹への対応は、次回提示される兄弟、姉妹がいる児童数の資料から再度検討したい。
- ・事務局
  - ・平成29年度まで、毎年20人であれば我孫子第四小学校で受け入れられるので、根戸小学校の児童数が6年間で120名減ることになる。転出入の多い地域であることから、3年程度で見直しも必要かと考える。その時点であれば将来像も見えてくると考える。
- ・委員
  - ・特別支援学級の学級増についても視野に入れ、配慮いただきたい。
- ・事務局
  - ・特別支援学級に就学する児童の推移を把握することは非常に困難である。児童数の推移から特別支援学級が増えることは予測している。
- ・委員
  - ・我孫子市の特別支援教育に対する評価は高く、特別支援学級への就学希望も多くなっている。
  - ・地域で地域の児童を受け入れる特別支援学級があることが望ましい。
- ・会長
  - ・特別支援学級へ在籍する児童数の推移を把握することは難しいようなので、特別支援学級の学級増についても視野に入れ、配慮することを本審議会の意見として考えたい。
- ・委員
  - ・根戸小学校では、特別支援教育を学校の教育活動の中心としている。
  - ・根戸小学校の言語学級は我孫子第四小学校学区の児童も対象としている。現在、1学級であるが、今後の言語学級の学級増も視野に入れ対応策を市教育委員会と検討している。
- ・委員
  - ・児童数、学級数の多い中、理科室が1教室など、特別教室は足りているか。
- ・委員
  - ・校舎配置図で分かるように根戸小学校では理科室が1教室である。
  - ・市教育委員会から理数サポート教員を配置してもらい、教室での理科実験を可能にするなど、人的支援でハード面を補っている。

- ・委員      ・通学経路の安全性への配慮はどうか。多くの児童生徒が狭い歩道部分を通学している箇所もある。
- ・事務局      ・昨年度、通学時の人数調査も実施した。700名を超える児童・生徒が国道6号線の歩道橋を渡っている。
- ・関係機関とも協議し、現在の歩道橋対策を協議している。改善へつなげたい。
- ・会長      ・現在の歩道橋は幅が2.75メートルである。市としても関係機関と協議しているのはっきりした段階で発表したい。
- ・委員      ・時間がかかるようなことも聞いている。早期に実現できるとよい。
- ・会長      ・早い時期に実現できるよう設計を工夫して子どもの安全を守れるように解決策を準備している。
- ・委員      ・学校選択制の実施により、子ども会や自治会に所属する子どもたちが複数の学校に通学していることになるが、その対応策はあるのか。
- ・委員      ・子ども会は地域ごとで運営されている。
- ・委員      ・複数の学校の子どもが一つの子ども会に所属することになるが、マンションの号棟ごとに学区を区切る案はないか。
- ・事務局      ・マンションごとに学区を変更する案も適正配置検討委員会で協議したが、受け入れ先の学校規模から難しいと判断した。
- ・地域へ帰った子どもたちは、根戸小学校と我孫子第四小学校の子どもが混在することになるので、学校として配慮が必要となる。
- ・委員      ・学校としての説明が大変になることが考えられる。
- ・委員      ・学校選択制を実施しても学級数は増える。教員の数も同様に増えるのか。
- ・事務局      ・学校の教員数は県の定数配置により決定する。現在は、第1学年で35人学級を実施するなど、児童数、学級数により教員の数も決まってくる。
- ・児童数、学級数が増加すれば教員数も増加する。
- ・委員      ・スクールバスの運行案があるが現実的なものか。
- ・事務局      ・我孫子第一小学校及び並木小学校については通学距離に対応してスクールバスの運行が検討された。
- ・過日実施した意向調査では両校への希望者が少なかったが、両校への通学を希望する児童数が確保できればスクールバスの運行も検討する。
- ・伝統ある我孫子第一小学校、英語活動を積極的に行う並木小学校と、それぞれの学校のよい面を知らせていきたい。
- ・会長      ・意向調査では、我孫子第一小学校や並木小学校を希望する人数が少ない。

- ・委員 ・我孫子第一小学校及び並木小学校の良さを伝えた上で意向調査を実施すると回答も違ってくる。
- ・事務局 ・来年度から両校の授業参観の案内などを対象の地域へ周知し、学校を知っていただけるよう努力する。
- ・会長 ・これまでの審議を整理する。  
 ・我孫子第四小学校受け入れ人数と弟妹への対応については、兄弟、姉妹関係の資料を見て再度検討すること。  
 ・学校選択制、兄弟・姉妹の対応策、特別支援学級、通学路、子ども会・自治会、教員数、スクールバスを含め、どうまとめるかについて、事務局から提示される答申案を基に次回検討したい。

## 2 久寺家中学校の通学区域の一部に選択通学区域を設けること

- ・委員 ・旧日立精機跡地マンション群から50名が白山中学校へ入学できることになっているが、我孫子第四小学校へは20名である。根戸小学校に通学して卒業する児童も白山中学校へ入学できることになるのか。
- ・事務局 ・根戸小学校を卒業し、久寺家中学校へ入学する中から50名が白山中学校へ入学できることになる。
- ・委員 ・希望者が50名を超えた場合は公開抽選となるのか。
- ・事務局 ・白山中学校の教室数から50名の受け入れを設定した。
- ・委員 ・我孫子第四小学校へ入学した20名も白山中学校へ入学するのか。
- ・事務局 ・白山中学校へ入学することになる。  
 ・我孫子第四小学校が最初に20名を受け入れてから卒業までに6年間ある。その過程で再度検討することも考えられる。
- ・委員 ・白山中学校の入学者推移の中に我孫子第四小学校の自然増も見込まれているか。
- ・事務局 ・自然増も見込んでいる。また、我孫子第四小学校から私立中学校へ進学することも考慮し、過去4年間のデータから私立進学者は10%と考えている。
- ・委員 ・学校選択制の導入は平成25年度入学者からとなるか。
- ・事務局 ・平成24年度末卒業者（平成25年3月31日卒業）が対象となる。  
 ・小学校において学校選択制を希望した児童は、平成31年度に中学校入学となる。
- ・委員 ・資料の意向調査の結果から、白山中学校を希望している人数を50名程度

と考えてよいか。

- ・事務局 ・現在の根戸小学校第3・4・5学年に意向調査を実施し、回収率が85%だった。100%とした場合は若干増加する。
- ・委員 ・白山中学校では、50名増えた場合、2学級増となるが、教室数から受け入れ可能と判断した。
- ・委員 ・50名が最大人数か。意向調査での希望者をすべて入学させられるのか。
- ・委員 ・学校として、2学級増であれば対応できる。余裕のない施設の中では教育活動が円滑に行えなくなる。現在の案であれば対応可能である。
- ・委員 ・今後、この地域でマンション建築の予定はないか。
- ・委員 ・現在のところない。
- ・委員 ・日立精機の跡地については建築条件はゆるやかだったが、現在我孫子地区においては規制が厳しくなり、マンション群が建築されることはない。
- ・会長 ・学校選択制により旧日立精機跡地マンション群から我孫子第四小学校へ入学した児童は、白山中学校へ入学することを基本方針とし、中学入学時までには検討することとする。

### 3 新木小学校の通学区域の一部変更すること

- ・委員 ・先ほど子ども会の意見があったが、布佐南小学校では、布佐平和台の子ども会に南新木の子どもたちも入れてもらった。その後、布佐平和台の子どもたちよりも南新木の子どもの方が多くなり、南新木に子ども会ができた。
- ・委員 ・南新木1丁目、2丁目の子どもが多いが、3丁目の方も入会している。
- ・委員 ・実際に住んでいる方の意向はどうか。
- ・委員 ・入学通知書は新木小学校を指定校として届くが、踏切を渡り、国道356号線を横断しないですむことなどから、布佐南小学校へ学区外就学する家庭が多い。
- ・委員 ・学区が変更されても特に異論を持つ保護者は少ないと考える。
- ・委員 ・南新木2丁目からの徒歩通学の距離はどうか。
- ・委員 ・若干家を出る時間は早いですが、登校班で普通に通学している。
- ・委員 ・踏切を渡らない、356号線を横断しないですむ利点もあるのか。
- ・委員 ・整備された道を通学できる。
- ・委員 ・湖北中学校も布佐中学校いずれの場合も自転車通学の距離である。

- ・ 委 員 ・ 現在、南新木は湖北中学校が学区となる。
- ・ 布佐南小学校へ入学した児童は、学区外就学により布佐中学校へ自転車通学している。
- ・ 資料の児童数からも布佐南小学校へ学区外就学している児童が多いことが分かる。
- ・ 会 長 ・ 学区を変更しても布佐中学校で受け入れられる。距離はどうか。
- ・ 事務局 ・ 実際の距離は湖北中学校が近いが、踏切や信号の数などにより時間的には布佐中学校が近いと考える。
- ・ 委 員 ・ 資料に単学級の課題解消とあるが、単学級による課題はどんなものか。
- ・ 委 員 ・ 単学級であると、入学時点での人間関係を引きずってしまい、解消できない点がある。2学級あればクラス替えもあり、新しい出会いが生まれる。少人数の中では刺激も少ない。
- ・ 少人数によるきめ細かな指導が行えることは利点である。
- ・ 委 員 ・ 学区変更により単学級は解消できるのか。
- ・ 事務局 ・ 南新木2丁目が布佐南小学校の学区となれば資料のとおり学年2学級で推移し、単学級は解消される。新木小学校も学年ごとに2から3学級となる。
- ・ 委 員 ・ 現在、新木小学校へ通学している児童の弟・妹の人数が減るものとする。
- ・ 児童数の推移に反映されているのか。
- ・ 事務局 ・ 現在の資料には反映されていない。次回までに資料を準備したい。
- ・ 第1学年は在籍児童数が36人で2学級となるので、予測人数が7名程度減ったとしても単学級は回避できると考える。
- ・ 委 員 ・ 特別支援学級対策については、どの学校においても同様に対応するのか。
- ・ 事務局 ・ 特別支援学級については、どの学校でも同じように対応する。
- ・ 会 長 ・ これまでの審議を整理すると、南新木1丁目、2丁目の湖北中学校の学区は、学区変更により布佐中学校の学区とする。
- ・ 新木小学校に通学している児童の弟・妹の人数を反映した資料を準備すること。
- ・ その他の意見がないことを確認して、審議を打ち切る。